

## 平成 25 年度 第 6 回文系チャレンジ講座を実施しました (H25/12/18)

平成 25 年度第 6 回文系チャレンジ講座が、2013 年 12 月 18 日、「企業を映す財務諸表 -『儲け』を示す損益計算書」をテーマとして、本学経済学部<sup>おぎのだい</sup>の越智 学講師によって行われました。遠隔配信された大分雄城台・大分鶴崎・大分商業・安心院<sup>あじむ</sup>・日田・別府青山・大分西・三重総合・臼杵の 9 校(159 名)と、来学した由布高校・大分豊府高校(40 名)を合わせて、計 199 名の高校生が受講しました

会計学が専門の越智先生は、今回の授業で会計の役割を明らかにした上で、企業の利益を読み取って分析していきました。

まず、企業とは「経営活動における財やサービスの生産主体であり、一般的に営利法人をさす。」と定義しました。次に企業経営とは、資金を調達して事業活動を行うことで利益(「儲け」)を得るプロセスであること、その過程において株主や従業員などといった利害関係者が存在し関わっていることなど、具体的事例を示しながら説明しました。会計とは企業の活動を貨幣額によって株主や従業員などの利害関係者に測定・伝達するプロセスであり、この会計というツールを使い、財政状態をまとめた貸借対照表や経営成績を示した損益計算書などといった財務諸表に現して伝えていくものであると説明し、損益計算書における基本的な構造と 5 つの利益(売上総利益、営業利益など)についても説明しました。

そして、企業経営のプロセスの結果としての「儲け」を、会計学を使って日本航空と全日空の 2 社を比較してみようと、受講生に問いかけました。実際に日本航空と全日空の利益を比較しました。比較する方法として今回は、収益性のある商品販売しているかどうかを判断する売上総利益率と、本業の収益力を測定する売上高営業利益率を活用しました。それぞれの利益率の算出方法を示し、受講生と実際の損益計算書の数値を使って計算していきました。この 2 社の「儲け」の比較を通して、先生は、企業の姿を項目と数字を使って見ること、つまり会計を使うことで企業の実態(「儲け」)を把握できることを示しました。

授業のまとめとして、日本における高利益率企業の一覧を挙げて、受講生が知らない優良企業が存在することを説明し、このようところに会計(学)が役に立つことを強調しました。

最後に、「大学で会計学を学ぶことで、社会の見えない部分がより詳しく見えてきます。」と、大学を目指す受講生にエールを送りました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」(94%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(97%)、「授業内容はわかりやすかった」(87%)、「授業内容は興味があったか」(75%)、「板書(スライド)は適切だった」(98%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」(94%)と高い評価結果ができました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」(96%)、「映像はよく見えた」(93%)という結果ができました。

受講生の具体的な声として、「先生の声が大きく明瞭で聞きやすかった。」「わかりやすく中身の濃い、実りある授業であった。」「企業の経営状況を見る指標を示していただき、経済活動の仕組みの一端を知ることができた。」「数学は苦手であるが、企業業績がはつきりとわかることに驚いた。」「売り上げと儲けは違うことなどよく理解できた。会計学を学んでみたいと思った。」「授業時間が短く感じた。」など、多くの感想が寄せられました。

